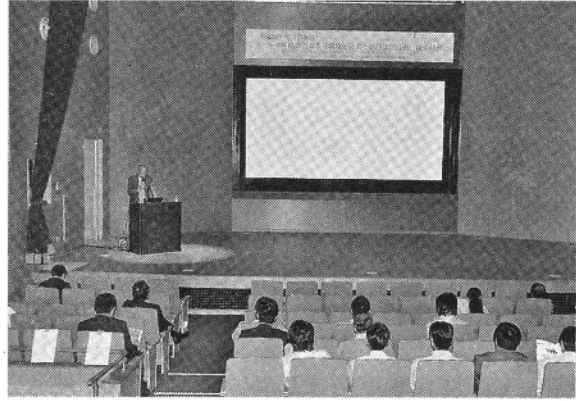


環境と防災、維持管理 ミラクルソル協会技術研修



【佐賀】ガラス廃材の再資源化を目的に開発した「ミラクルソル」を多角的に使用した新技術・新工法に取り組んでいるミラクルソル協会（原裕理事長）は25日、環境と防災と維持管理技術をテーマに平成30年度第26回技術研修会「写真」を唐津市の高齢者ふれあい会館（りふれ）で開いた。

建設コンサルタント、建設会社、協会会員ら約80人が参加した。冒頭、原理事長は「最近の自然災害は地球温暖化による気候変動が原因と思う。建設業に携わる我々は、少しでも緩和できるような、新しい工法を作りCO₂を減らす努力が必要だ」と述べ更に、「災害が続くようであれば、土木構造物や斜面構造物に対して人命に

影響を与えない設計が要求されてくる。今日の研修会が、今後仕事においての一助になれば幸いだ」と挨拶した。研修は、2部構成で行われ、第1部では「多目的環境材料ミラクルソルの活用技術」のテーマで原理事長が講演。ミラクルソルによって路面温度を低下させるFWG透保水性舗装工法やFWG軽量盛土工法ではミラクルソルが軽量土材として使用されたこと、FWG軽量混合盛土工法においては、佐賀平野の軟弱地盤上に盛土工事を実施し歩道を新設した事例などを紹介。また、環境緑化工法については、斜面緑化や屋上緑化など多岐にわたる施工事例も紹介した。

続いて、日特建設(株)技術本部設計部佐藤康弘部長が「環境に配慮した斜面对策技術と最近の維持管理の話題」をテーマに講演。ジオファイバー工法、ノンフレーム工法、高強度ネット工法の施工システム・用途・施工事例などを紹介するとともに、維持管理の動きとして、特定道路土工構造物（切土・斜面安定施設・盛土）は、道路管理者が5年に1回を目安として、詳細点検を行うことが義務づけられ、診断の結果に基づき必要な措置を行うと説明した。

第2部では、「SSLアンカー工法及びアンカー工の維持管理について」と題して国土防災技術(株)佐賀支店井上太郎支店長が、「道路土工構造物の維持管理の現状と動向」と題して岡三リビック(株)技術開発部小浪岳治部長がそれぞれテーマに合わせて講演した。

また、この日はパネルディスカッションや質疑応答も行われた。